

三位一体の神 —— 愛の交わりという抱擁

三位一体主日 箴言8章22～31節 細井 茂徳

「自分には居場所があるのだろうか」という不安を抱える私たちに、聖書は驚くべき真実を告げます。この世界を造られた神ご自身が、永遠の愛の交わりの中におられるお方だということです。父・子・聖霊なる神は、孤独な存在ではなく、互いに愛し、喜びを分かち合う豊かな交わりそのもの。三位一体とは、難解な教義ではなく、「神がどれほど本気で私たちを愛し、その交わりへ招き入れようとしておられるか」を語る“愛の告白”なのです。

箴言8章には、創造の時に神のそばで「**腕を振るう者(職人)**」(30節)として働いた「知恵」が(擬人化されて)描かれています。教会はこの知恵の中に御子キリストのお姿を見ます。天地創造は父と子と聖霊の愛の計画の中で行われました。キリストが人となって来られたのは、神の永遠の愛が私たちの世界へ直接届いたことを意味します。私たちの命は偶然ではなく、神が喜びをもって生み出された「愛の作品」であり、その壮大な愛の計画の中に確かな居場所を与えられているのです。

「どうして三つなのに一つなのか」と理屈で解き明かす必要はありません。三位一体の神は、私たちの救いを全方位から包み込んでくださいます。【父】は祈りを聞く父として、【子】は罪の断絶を埋める救い主として、【聖霊】は私たちの心に「あなたは愛されている」と語りかける方として働いてくださるからです。

三位一体を信じるとは、その構造を理解することではなく、神の愛の中に抱き入れられているという事実信頼することです。私たちは、神の家族の食卓に、自分たちのための席を備えられています。洗礼を受け、神を告白するとは、「私は神の愛の輪の中に迎え入れられた」という喜びに生きることです。どんな嵐の中にあっても、私たちの人生の運転席には神さまがおられます。神さまは今日、私たちに語りかけておられます。「あなたの席はここにある。あなたはまだ一人ではない」と。この愛の抱擁の中に留まり、歩んでまいりましょう。